

令和2年5月26日

【令和2年度福島県意見交換会 実践の場 企画（案）】

○題名（仮称）

「東日本大震災からの復興における多様な主体の取組」

副題「東日本大震災から10年の経験を明日の挑戦へ」

1. 目的

（1）「新しい東北」官民連携推進協議会 福島県意見交換会では、平成29年度から継続して地域の課題解決に向けて、多様な主体による協議・協働を生み出すための取組を行ってきたところである。令和2年度は、震災から10年目の節目を迎える年であり、かつ、復興・創生期間の最終年であることから、同協議会メンバー等が、今日に至るまでの活動を振り返るとともに、各自の知見・技能を互いに共有することにより、東日本大震災（以下「震災」という。）からの復興に向けた今後の取組につなげることを目的とする。

（2）震災において福島県は、地震・津波及び原子力災害の複合災害を経験した。震災による甚大な影響に加え、これに伴って顕在化した、地域経済の衰退、コミュニティの喪失などの地域課題の解決に向けて、県内では官民による多様な取組が行われている。こうした地域課題は我が国が今後全国で直面する課題であることから、「課題先進地」の福島として地域内に蓄積された事例・知見を全国の協議会関係者等で共有することも目的とする。

（3）被災地の中でも浜通り地域は原子力災害により甚大な被害を受けた。原子力被災地域の復興は、広範な課題に取り組まなければならない、中長期的な対応が必要である。このため、今回の企画では浜通り地域の復興を中心に据え、意見交換を行うこととする。

2. 対象

- ・「新しい東北」官民連携推進協議会の会員（+会員傘下の企業等）
- ・これまで協議会の表彰等を受けた者
- ・その他 有識者、次世代を担う若者、まちづくり会社、官民合同チーム、イノベ機構、行政関係者など

3. 内容

(1) テーマ (P)

- ・「生業の再生」(いかに仕事を生み出すか?いかに人材不足を解消するか?)
- ・「コミュニティ形成」(いかににぎわいを取り戻すか?いかに孤独・不健康を防ぐか?)
- ・「地域づくり」(いかに地域資源を活用するか?)

(2) 形式

① ミニプレゼン

テーマごと各 2 名の登壇者が、これまでの取組の概要、取組の背景となった地域課題と着眼点、今後の展望について各テーマ 10 分程度でミニプレゼンを行う。

【登壇者】

「新しい東北」関連事業で表彰・顕彰された方等のうち、浜通りで活動されている方
(3 テーマ各 2 名、計 6 名程度。オンラインも可能)

【傍聴者】

登壇者以外の参加者全て (オンラインでの傍聴・質疑も可能)

② テーマ別の意見交換

テーマごとのグループに分かれ、以下の点について意見交換を行う。

- ・各自の取組 (概要、順調な点、苦勞している点、今後の連携に役立つ知見・技能)
- ・テーマに関する今後の期待や課題
- ・ミニプレゼンで紹介された取組を拡大・深化させるための取組、そのための連携方法

【司会 (ファシリテーター)】

意見交換参加者とは別に、ファシリテーションの技能を持つ方に依頼(各グループ 1 名)

【参加者】

ミニプレゼン登壇者含む全参加者 ※多様な出身・所属の方が入るようにする
(3~4 グループ各 8 名、計 20~30 名程度。オンラインでの傍聴も可能)

③ 全体会

意見交換の結果を各グループの司会 (ファシリテーター) が取りまとめ、全体に向けて発表する。

(3) 時間

全体で 2 時間~3 時間程度

- ・福島復興局挨拶 (含:復興の現状を簡潔に説明): 10 分
- ・各グループ
 - ・表彰者等によるミニプレゼン: 30 分

- ・意見交換：1時間30分
- ・全体会
各グループの意見交換の内容を報告：15分

4. 開催形式等

平日開催、場所は浜通り（候補：J ヴィレッジ）